

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 17 日現在

機関番号：14501

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520087

研究課題名(和文) 空襲記録から見る戦後日本と東アジアの戦争記憶に関する思想史的研究

研究課題名(英文) Studies the Historical Thought on War memory ; Post war Japan and Cord war Asia by Air raid record

研究代表者

長 志珠絵 (Osa, Shizue)

神戸大学・国際文化学研究所・教授

研究者番号：30271399

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：空襲研究は本土の市民運動として蓄積されてきた。本研究では、これらに学びつつも、戦争認識や戦後の平和認識といった人文科学の研究をベースとした関心から、防空思想との関係や空襲言説をテキスト論として読み解く方法によって、戦時下占領期戦後といった長いタイムスパンによって総合的に論じた。また植民地研究との架橋はなされてこなかったが、本研究では、台湾朝鮮といった植民地空間においてどのような調査のされ方論じられ方がなされているか、検討を加えた。

研究成果の概要(英文)：The reserch to Air raid victim were to progress by many of Civil movoments of aroud in Japan. But so much there were no interest to relationship of wartime system and wartime thinking , especially the colonial Taiwan and Chosen. However the Air raid bombing Erea by U.S. Army were space of Empire Japan , therefore this study focused on them, the mentioned by new historical documents.

研究分野：戦争認識 戦争の記憶論

キーワード：空襲 帝国 戦争認識 戦争の記憶

1. 研究開始当初の背景

市民運動中心に蓄積されてきた空襲記録運動を選び、戦争の記憶をめぐる思想史文化史的な対象として分析を試みた。本研究は申請者のこれまでの研究課題である戦争の記憶論を土台とし、新たに「空爆研究」と「戦争後の戦争の記憶」という2つのタームに着目した作業である。近來の米国と東アジア地域の文化理論研究はトランスナショナルヒストリ－的視座を課題とし、戦争の記憶と東アジアの戦後状況との関係に注目する。この点で空襲空爆問題こそは、事後の戦争認識を問う作業であり、今日の戦後史料をめぐる公開状況を有効に用いることで、帝国日本の記録を通じ、台湾韓国も視野に入れた史料実証主義的な手法をふまえた認識研究が可能かつ着実な成果が見込まれる。空爆情報はまず戦時下において、先端の軍事技術機密であり、作戦としても、住民への戦意喪失を狙う目的を持った。このため、同時代ではプロパガンダとして情報操作され、防空思想や空襲被害情報・経験、空爆認識は共有される条件を持たなかった。これらの検証や深化及び公的記憶化は、戦争「後」の社会が担った思想的営為と考え、課題を設定した。

2. 研究の目的

戦後の市民運動中心である点や地域研究と思想史文化史研究との架橋および植民地時代の台湾朝鮮の経験を加えることで、戦争認識をめぐる植民地およびポスト植民地主義の観点も取り入れることを試みた。空襲記録の持つ空間的な広がりを東アジアの戦後空間に再配置し、戦後の戦争記憶として思想的に分析する観点は申請者がこれまでの研究成果をふまえて着想した独創的なものである。また戦争記憶論は主に、オーラルヒストリーとして蓄積されてきたが、申請者の得てきた文献実証的な方法は戦争記憶の次世代継承として有効であり、手堅い実証研究としての成果は国内外に発信できると考えた。

3. 研究の方法

本研究は思想史研究の方法としての、文献史料に基づく歴史認識の分析をふまえ、空襲記録の持つ空間的な広がりを東アジア戦後空間における、戦争の記憶のあり方として検討する。研究計画としては、史料公開が進む戦時下、占領期及戦後直後の米軍の英語記録資料も含めた史料収集と分析を基礎に、特に、東アジア規模での現在の空襲記録に関わる研究者間ネットワークを用いた研究会や学

術交流の機会、発信として研究成果の速やかな公開を進め、国内外での学会報告や学術および市民交流の機会を持つことも重要と考える。

4. 研究成果

本研究では、本土の市民運動として蓄積されてきた空襲経験をめぐり、あるいは米軍資料を用いた議論に学びつつも、これらを1) 戦後思想史文化史としての文脈に広く位置づける 2) 占領期も含めた新たな史料の発見とこれらをテキストとして読み解く作業を通じて戦争認識や戦後の平和認識といった人文科学の研究をベースとした関心と意味付ける 3) 戦時下の防空言説や防空思想との関係も説き起こす一方で、これらをジェンダー射程によって読み解き、空襲言説の広がり示す 4) 1970年代の戦後市民運動の文脈を再検討する 5) 戦後の国土に限定されてきた空襲記録運動やその射程をめぐり、米軍資料などの収集および日本の行政文書や調査報告書をテキスト分析することで台湾朝鮮の植民地研究との架橋をめざす

—といった諸点を示し、戦争認識をめぐる思想史文化史研究の素材としての空襲研究という新たなアリーナを示した点に本研究の成果がある。具体的な分析方法は、空襲空爆認識をめぐる言説分析を進めることにあったが、米軍のまなざしによる帝国空間の広がり的一方、戦後は本土の戦争の語りとして「一国史」に閉じていく趨勢を明らかにし、東アジア世界の戦争記憶論の特徴とした。

本研究の成果は国内外で注目され、①長志珠絵「日本占領期と空襲記録/記憶」(15年戦争研究会例会報、2014.2.10、於梅田、関学タワー) ②長志珠絵「人種とジェンダーの視点から見る戦後日本の空襲の記憶と記録」NYU(U.S.A) シンポジウム; Borders, Frontiers, Minsyu 民衆・境界・辺境 (2013.10.18) ③長志珠絵 Air raid memory and records in Japan: A gender perspective by Shizue Osa ; Fighting Women : In Asia and Europe during and after World War II, the Netherlands Institute for Advanced Study in the Humanities and Social Sciences, Wassenaar, the Netherlands, 11-13 June 2014 (2014.6.13) ④長志珠絵「越境する戦争記憶の共有に向けて-帝国空間としての東アジア」南山大学アジア・太平洋研究センター主催講演会 2014.12.15 於南山大学名古屋キャンパス, 2014.12.15 ⑤長志珠絵「戦前戦後における空襲言説の変容」2014.12.14, 於横浜国立大学, 2014年度ジェンダー史学会大会分科会 ⑥長志珠絵「越境する戦争の記憶-空襲研究を手がかりに-」韓国日本学会 2015.2.7, 於大韓民国ソウル市

建国大学校,大会テーマ「東アジアの共存と日本研究」

-の以上の国内外(米国、韓国、オランダ等)での招請講演、招請報告、学会報告他、国際学会やコンベンションにおいて、意見と情報、その成果を学際的に、あるいは市民交流の場も含め意見や議論を交換することが出来たことも大きな成果と考える。特にこれらの研究成果のうち、海外の招請報告等についてはそれぞれ学術的対話の機会を得ることで、越境する戦争認識の思想文化史的な学術成果がいかに重要かつ求められているかについても実感することができた。また国内でも占領初期に実施された米国調査団USSBSによる空襲被災都市への住民インタビューテープについての報告「<声>を読む-占領と空襲記録」を「15年戦争研究会」の例会報告にて行うほか

(2014.2,『15年戦争研究会』彙報,2014年5月号)、この主題については社会的関心も高く、研究成果に対するコメントが新聞に掲載され(『東京新聞』2014.3.8,29面)、市民講演会を行う(2014.10.18 於神戸大学公開講演会)など、「戦争<後>の戦争の記憶」をめぐる社会的な要請も確認できた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

1. 長志珠絵

「“CITY MAP OF KYOTO”を「読む」(『アーナ』15,2013.6,36~45頁)

2. 長志珠絵

「戦争の事後を考える-東京市忠霊塔のゆくえ」(『人文学報(特集-近代歴史都市論)』104,2013.3,137~166頁)

[学会発表] (計5件)

1. 長志珠絵

「人種とジェンダーの視点から見る戦後日本の空襲の記憶と記録」NYU(U.S.A)シンポジウム;Borders,Frontiers,Minsyu 民衆・境界・辺境(2013.10.18)

2. 長志珠絵

Air raid memory and records in Japan: A gender perspective by *Shizue Osa*; Fighting Women: In Asia and Europe during and after World War II, the Netherlands Institute for Advanced Study in the

Humanities and Social Sciences, Wassenaar, the Netherlands, 11-13 June 2014 (2014.6.13)

3. 長志珠絵

「戦前戦後における空襲言説の変容」2014.12.14,於横浜国立大学,2014年度ジェンダー史学会大会分科会

4. 長志珠絵

「越境する戦争の記憶-空襲研究を手がかりに-」韓国日本学会 2015.2.7,於大韓民国ソウル市 建国大学校,大会テーマ「東アジアの共存と日本研究」

5. 佐々木 和子

「大阪における空襲研究とピースおおさか」(日本史研究会9月例会 2013.9.11)

[図書] (計2件)

1. 共編纂書

長志珠絵

『歴史を読み替える ジェンダーから見た日本史』大月書店2015.1,全278頁

2. 単著

長志珠絵

『占領期・占領空間と戦争の記憶』有志舎,2013.6,全378頁

[産業財産権]

○出願状況 (計 **0** 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

○取得状況 (計 **0** 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
取得年月日:
国内外の別:

[その他]

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

長志珠絵 (OSA, shizue)
神戸大学大学院・国際文化学研究科・教授
研究者番号：30271399

(2) 研究分担者

佐々木和子 (SASAKI, kazuko)
神戸大学・地域連携推進室・地域連携研究
員

研究者番号：20437437

(3) 連携研究者

()

研究者番号：